

◆ 本県の診断標準学力テスト問題についてお知らせ ◆

福島県診断標準学力テスト問題を本年、中学校1年・2年分をはじめて作り
ました。

教科は、国語、社会、数学、理科、英語の5教科です。どうぞ御利用ねがい
ます。

申込先…福島県教育センター内 福島県教育資料研究会

なお、くわしくは、同センター「研究・相談部」におたずねください。

あ と が き

所報第17号ができました。お届けします。今年の夏は
暑い期間が短かったといわれておりますので、先生が
たにおかれては、特別活動、研究、研修等に精進された
ことと思います。

さて、教育史の編さんなどに携わっていると、いろ
ろな文章に遭遇するが、読者をして感動させる文章とい
うのは、事実の重みの裏付けのある文章ではないだろう
か。

例えば、「……（前略）天皇は落ち着きがなく、それま
での幾月かの緊張を、はっきりおもてに現していた。天
皇の通訳官以外は、全部退席させた後、私たちは、迎賓
室の端にある暖炉の前にすわった。

私が米国製の煙草を差出すと、天皇は礼を言って受取
られた。その煙草に火をつけて差上げた時、私は天皇の
手がふるえているのに気がついた。私はできるだけ天皇
のご気分を楽にすることにつとめたが、天皇の感じて
いる屈辱の苦しみが、いかに深いものであるかが、私には
よくわかった。

私は天皇が、戦争犯罪者として起訴されないよう、自
分の立場を訴えはじめるのではないかという不安（ソ連
と英国が提出した戦犯リストの筆頭に天皇が記されてあ
り、両国とも、天皇を戦犯者に加えるよう強く要請して
いたこと。マッカーサーがこれに強力に抵抗したこと。
ワシントンが英国の見解に傾きそうになったときには、
より強力に反対し、結局天皇の名は戦犯リストからはず
されたこと。——これらいっさいのことを天皇は少しも
お知りになられなかったことをさす。——筆者K注——）
を感じた。……（中略）……こうした私の不安は、天皇
の口から出た次のような言葉で消え去った。

『私は、国民が、戦争遂行にあたって、政治軍事両面
で行なったすべての決定と行動に対する全責任を負う者
として、私自身をあなたの代表する諸国の裁決にゆだね

るためにおたずねした』。

私は大きな感動にゆさぶられた。死をとまなう程の責
任、それも私の知り尽くしている諸事実に照らして、明ら
かに天皇に帰すべきではない責任を引受けようとする、
この勇氣に満ちた態度は、私の骨の髄までもゆり動かし
た。私はその瞬間、私の前にいる天皇が、個人の資格に
おいても、日本の最上の紳士であることを感じとったの
である。……（後略）」（『福島県教育史第3巻』46ペー
ジ、遠藤 経 執筆 “終戦当時の教育——混乱の教育現
場”——マッカーサー回想記——よりの引用部分）。

また、「……（前略）教職不適格の通知と共に給料が
とまったので、配給物もとれないことがしばしばで、生
活の悲惨さは言語に絶するものがあった。男三人、女三
人の六人家族で、……（中略）……インフレが進む中
で、月取もない、恩給もない、全く、木から落ちた猿の
生活で、なすことを知らない毎日がつづいた。

教材の売込に箱崎小学校に行った時、古宮佐源治校長
が、昼食時だったので、『昼食を食べて行け』としきりに
すすめるのをふり切って、伊達橋の下で弁当のふたと
とったが、それは、豆腐からにねぎが三本と生味噌が少
々であった。川の流れを眺めながら昼食をしたが涙の出
るのが止らなかつた。この同情は身にしみてわかるが、
食を乞うことだけはしたくなかつた。古宮校長は既に亡
くなつたが、この暖かい言葉は一生忘れられない。……
（後略）」（『同前』141ページ、青木喜八郎執筆 “終戦
当時の教育——軍政府の教育管理”——明治百年福島県
教育回顧録——よりの引用部分）。

ともあれ、歴史上の真実に裏付けられた「証言」とい
うものは、凡百の、流行に操られた、ぼう大、さ末な事
象が、次々と時代の推移の波に洗われて消失していくの
に反して、ますます時代とともにその光輝と迫力を増し
ていくものではなからうか。 (K)